

様式 4

平成 26 年度 第 3 回学校関係者評価報告書

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

学校長 足立一穂

評 価 日	平成 26 年 2 月 13 日 (木)	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況と改善に向けての提言</p> <p>○挨拶や服装の指導について 表面的な指導でなく、社会に出るためにはきちんとできなければならないという必要感を持つことが大切。生徒自身も保護者にもそういう意識づけをしっかりと行う必要がある。 服装などはセルフチェックの習慣をつけることも必要。チェックリストなどを作成し活用してほしい。</p> <p>○支援計画の作成について 本人・保護者だけでなく、関係機関も巻き込むようにしてほしい。やがて地域に帰ることを考えると、児童民生委員とつながりを作ることも一つの方法である。</p> <p>○長期欠席やいじめ防止について 長期欠席者もなく、学校に居場所ができていることが伺える。アンケートでは、からかいがあると感じている生徒もいる。イヤと言えない生徒も多いと思う。卒業後を考えると相談できること、相談できる人がいることが大切。</p> <p>○寄宿舎生活マイスター制度について 生活マイスターを寄宿舎から学校へ広げるという見通しは大切。琴の浦の特色ある取り組みになると思うのでぜひ取り組んで欲しい。</p> <p>○地域支援、中学校との連携について 琴の浦への進学だけの問題ではない。小学校から中学校、さらにその先、その先と見越して考えることが大切で、小学校段階からの理解が必要である。</p> <p>2. 裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <p>○大阪たまがわ支援学校との交流について 良い刺激を受ける機会。全生徒が交流できるぐらいの予算をとって実施してほしい。</p>		<p>○各分掌が連携し、学校全体で卒業後のイメージを持って指導体制を考えるようにする。チェックリストの掲示なども統一規準で取り組み、日常的に意識づけを行いたい。</p> <p>○児童民生委員との連携については今後ぜひ考えたい。</p> <p>○引き続き、担任、相談担当、養護教諭などが連携し、相談できる人の確保にも務めたい。からかいについては、人権教育の視点からも取り組む。</p> <p>○時間はかかるが、まずは寄宿舎でしっかり取り組み、学校へと広げられるようにする。</p> <p>○学校公開や説明会での研修会の設定など、引き続き情報発信の内容や方法を検討する。</p> <p>○来年度も実施予定。できるだけ多くの生徒が参加できるようにPTAからの補助なども検討予定。</p>

○進路指導・企業開拓について

就労セミナーは予想以上に盛会だった。企業の手応えはどうか。全県に渡っての企業開拓は大変。学校支援ボランティアやコーディネーターのような考え方で、企業開拓のための人材確保も考えてみてはどうか。

○地域連携について

地域のお世話になった方に感謝の気持ちを伝えることができる場の設定が必要ではないか。そういう気持ちを育てたい。してもらっただけでなく、人のためにするという体験も大切。

特別な場でなくても、掲示物等を使って日常的に意識を高めることもできる。

○本校への期待度の高い企業も多く、学校のPRはある程度できていると感じている。

現在配置されている就労サポーターとの効果的な連携方法を検討中である。

○連携先にはお世話になっている。近隣の住民の方からも良い評価をいただいている。感謝を伝えるような場の設定は大切なことなので、ぜひ、取り組みたい。